

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

別紙様式2（高）

目指す学校像	・向上心を持ち自分に適した進路を実現できる学校 ・学習した知識や技能を基に資格等の取得ができる学校 ・ICTを効果的に活用しながら、生徒と教員がともに学び合える学校 ・ルールやマナーを大切にし、地域から信頼される学校 ・学校行事や部活動等を通して、生徒が主体的・積極的に取り組む姿勢を育める学校 ・本校に携わるすべての人がWell-Beingであるために、自他を尊重し、互いの長所を生かして物事に取り組める学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	向上心を持ち、主体的に学習や学校生活に取り組み、協働して地域社会の発展に貢献できる人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	3学科の特色を生かすとともに生徒の幅広い学習ニーズに応え、ICTを効果的に活用した学習活動とキャリア教育により、就職から大学進学まで生徒一人ひとりの多様な進路希望を実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学校や社会の規範を守り、多様性を尊重し認め合いながら日常生活を送ることができ、授業はもとより、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> 普通科、機械・情報技術科、商業科を有する特長を生かし、幅広い選択科目を設定したり、課外活動を充実させることにより、資格取得や個々の希望進路の実現に力を注いでいる。 <課題> 令和3年度入学生から、機械科、情報技術科の2学科が、機械・情報技術科の1学科になったことに伴い、教育課程やコース制を柔軟かつ円滑に	教育課程の充実	① 指導方法の改善や学校設定科目（シン発見）に係る取組の充実を図ると共に、令和4年度入学生から適用された新学習指導要領において、生徒の基礎学力の定着と向上、進路目標の達成に対応できる教育課程の構築を図る。 ・設定科目の効果的運用のため、入学生の実情を把握し、現状に合わせた習熟度・少人数学習を行う。 ・各学科それぞれの特色が最大限に発揮できる教育課程の編成及び実現を図る。 ・多様な進路希望に応えられる、柔軟性のある教育課程を編成する。	B
	学習指導の充実	② 分かる楽しさが実感できる授業を展開することで、生徒の主体的な学びを引き出し、進路目標に応じた学力と専門性を身に付けることにつなげる。 ・授業でICTを効果的に活用し、学習内容の理解促進を図り、学ぶ意欲の向上を図る。 ・確認テスト、実力テストなどで理解度を確認し、個に応じた指導を展開することにより、基礎・基本の確実な定着を目指す。 ・PDCAサイクルにより、生徒の学力を適切に評価し、学習課題を明確にすることにより、学習意欲の向上を図る。 ・発展的な問題への挑戦など、大学等への進学希望を持つ生徒に対する個別指導を充実していくことで、さらなる学力向上を図る。 ・生徒の実態に応じたICT教材の研究、相互の授業参観、教科内の連携・研修等を通して、学習指導の工夫や質的向上を図る。	A

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

運営することが求められる。 また、本校の教育目標である、次の1～4を達成するために、地域や関係機関との交流・連携を深め、進学・就職と多岐にわたる進路希望の実現を継続していくことが求められる。 1 一人ひとりの個性を生かし、学ぶ意欲や創造性を育む。 2 豊かな人間性や社会性を育む。 3 健やかに生きるための丈夫な身体を育む。 4 産業社会の発展に貢献できる力を育む。	進路指導の充実	③ 3年間を見通したキャリア教育を推進することで、生徒の望ましい勤労観・職業観を育成し、多様な進路目標の実現を図る。 ・聞く力、表現する力、進路実現のために必要な態度やマナーなどが身に付く「3年間を見通した指導体制」を構築し、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。 ・外部講師等の人材を有効に活用するとともに、インターンシップ・デュアルシステムや進路説明会に生徒が主体的に参加することにより、進路意識の高揚を図る。 ・向学心を高め、計画的かつ継続的な課外指導を実施することで、大学進学にも十分対応できる学力の獲得を目指す。	B
	生徒指導の充実	④ 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努めるとともに、人間としての在り方生き方に関して考察を深めることで、豊かな心の育成を図る。 ・生徒面談、アンケート調査、家庭訪問、ホームルーム活動の工夫を通して生徒理解に努める。 ・生徒は、挨拶・身だしなみのマナーの重要性を理解し、社会性を育み、基本的生活習慣、規範意識の確立を目指す。 ・ボランティア活動を促し、人間としての在り方生き方を考えさせることで、社会の一員として主体的に生活することができるようにする。 ・学校・家庭間の情報共有を密にし、問題行動の未然防止及び再発防止を図る。	A
	特別活動の活性化	⑤ 生徒会活動・部活動等の活性化を図り、充実感・達成感を味わえる、明るく活気ある学校づくりに努める。 ・1年生に部活動入部を促し、学校の活性化を図るとともに、規律ある生活態度や自律性に富む生徒の育成を図る。 ・ホームルーム活動、委員会活動や生徒会活動の充実を図り、生徒一人ひとりが自主的・主体的に参加できるよう支援する。 ・地域の行事やキャンペーンにも積極的に参加するよう生徒を促し、地域との連携を図りながら生徒の活躍する姿を地域に発信していく。	A
	キャリア・パスポートの積極的活用	⑥ 学校内外での生徒の活動や学びのプロセスを振り返るキャリア・パスポートを作成し、その活用を通して、基礎的・汎用的能力を身に付けることにつなげる。 ・授業や学校行事、部活動等の様々な体験や学びの中において自ら目標を設定し、振り返り・見直しを図り、「自分らしい生き方」が模索できるようにする。 ・地域社会や企業との連携の中で、学ぶことや働くことの意義について考えることを通して、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを持てるようにする。	B
	地域連携の推進	⑦ 地域との密な連携と交流を推進し、生徒の活躍の機会を上げるとともに、生徒が活躍する姿を積極的に発信することで、地域から信頼され、期待される活力ある学校を目指す。 ・ホームページの充実を図り、保護者や地域、中学校等への積極的な情報発信に努める。 ・学校外からの声も積極的に取り入れ、学校・家庭・地域社会が相互に連携・協力した教育活動を推進する。	B
	働き方改革の推進	⑧ 業務の役割分担の適正化、ICTの導入を図るとともに、教職員の勤務時間に関する意識改革や業務の改善を進め、時間外勤務の減少を目指す。 ・業務の役割分担（基本的には学校以外が担うべき業務、学校の業務だが必ずしも教師が行う必要のない業務、教師の業務だが負担軽減が可能な業務）について見直し、教員の負担軽減を図る。 ・勤務時間の管理や適正な勤務時間の設定（勤務時間の把握、登下校指導・部活動・学校の諸会議等の適切な時間設定、学校閉庁日の設定など）を行い、ICT教材の共有化を進め、勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制を図る。 ・互いの業務に関して理解を深め、負担感を減らせるように協力する。	A

* 評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		授業改善の推進	⑨ 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点を実現した生徒たちの姿を念頭に置き、その姿に近づけるためにどのような授業の工夫ができるのかを追求していく。 ・授業について全職員で協議する場を設定することにより、一人ひとりが授業改善にかかわる具体的な方策を出し合い、他教科から学ぶ機会を得る。 ・「身に付けさせたい力（目的）」を意識した上で、授業の「ねらい、課題、発問、板書、まとめ、振り返り」など、各場面の質的向上を図る。 ・生徒や他の職員の声、評価等をもとに日々の授業を振り返り、目指す授業像を描き、改善策を立てる。 ・教科・領域や使用する教材、生徒の実態に応じて、適当な ICT 機器を活用するなどして、より多様な授業形態の実践を図る。 ・指導計画、教材研究、教授資料など、共有化を図り、他の教員の効果的・先進的な取り組みを学び、自身の授業改善に活かす。 ・生徒による授業評価（４段階）において、授業満足度（KPI）3.4 以上を目指す。		A		
評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策		評 価	次年度（学期）への主な課題	
各教科	国語	基礎学力の向上と定着	実社会に必要な国語の知識や技能を定着させるために、単元目標の具体化や指導方法と学習評価の改善①②		A	A	継続して実社会に必要な国語の知識や技能の定着を図るために、語彙力の養成を意図的に行うことができた。反対に、主体的・対話的な授業づくりでは、効果的な言語活動として、生徒の思考を言語化し、相手にさまざまな形で表現する協働的な学習の充実を図ることに課題が残った。次年度は知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力を高める授業を実践できるよう努めたい。
		ICT の活用と主体的・対話的で深い学びの実践	主体的・対話的に取り組めるように ICT（タブレット・電子黒板等）を活用した学習や、ペアワークやグループ学習といった協働的な学習を授業に取り入れる②⑨		B		
		授業改善	生徒による授業評価（KPI）の平均が 3.4 以上になるように効果的な言語活動の充実や授業改善を行う②⑨		A		
	地理歴史	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る②		A	A	生徒各個人の学力向上を目指し、より「分かりやすい」授業の実践と適切な教材研究の推進を継続する。そのために、ICT を活用した授業に関する情報を収集し、効果的な利活用を模索する。 教材の共有量を増やし、全生徒に最適な授業を展開
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫や I C T を活用した授業の展開を図ると共に、個別最適な学習の実現にむけた授業改善②		A		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が 3.4 以上になるように授業改善を行う②⑨		A		
	公民	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る②		A	A	
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫や I C T を活用した授業の展開を図ると共に、個別最適な学習の実現にむけた授業改善②		A		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が 3.4 以上になるように授業改善を行う②⑨		B		

* 評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

各教科						開することで学力の平準化を目指す。
	数学	基礎学力の定着	個に応じた適切な教材・課題を用意し、反復練習・振り返りを通して、基礎学力の定着を図る ②	A	A	習熟度別授業を行い、基礎力の育成に関して学習効果を出すことができた。一方、生徒の特性や関係性がクラス分けに影響することや、教員の欠員時の補填が不足すること等の課題があった。次年度の授業のあり方について、よりよい形で行うため教科内で検討していく。
		習熟度授業による学習支援	習熟度でクラスを編成し、個に応じた学習支援を行い、基礎学力の向上を図り、自己肯定感を高める②	A		
		学びに向かう態度の醸成	探究活動やICT機器の活用など、単元に応じた様々な働きかけを行い、学習意欲を高める ②⑨	A		
		授業改善の推進	他教科との連携を通したSTEAM教育や、教科内での情報交換・教材共有を積極的に行い、授業展開を見直し、授業満足度（KPI）の平均が3.4以上となるよう授業改善を図る ②⑨	B		
	理科	基礎学力の向上	理論の有用性に気付き、主体的に学ぶ姿勢が向上するような授業を実践する ②	B	B	ICTを活用したり実験観察を行ったりして、興味関心を引き出す工夫を行っているが、基礎知識の定着や思考力の向上に課題がある生徒がいる。次年度は、個に応じた指導を行い、より深い学びの実現を目指す。
		実験・観察の充実	生徒の意欲・関心を高める実験・観察を積極的に取り入れた授業展開を図る ②	A		
		主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践	調べ学習、グループワーク、振り返り等の実施や、ICT機器の適切な活用により、主体的・対話的で深い学びの実践を目指す ②⑨	B		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるよう、教科・科目の特性を生かした授業改善を図る ②⑨	B		
	保健体育	技能の定着	個・グループの実態に応じた指導方法の工夫と反復練習により、技能の定着を図る ②	A	A	グループ活動やICTを活用して、合意形成を図る場面を継続的に設定した。体育が苦手な生徒が一定数いるため、一人一人の違いに応じた指導を行うことにより、授業に主体的に取り組める展開を考えていく。
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫やICTを活用した授業の展開を図り、主体的に学びに向かうことができるように授業改善を行う ②	A		
		運動器具・設備等の安全管理と確保	体育用具・設備の安全管理の徹底を図る ②	A		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨	A		
	芸術	基礎・基本の定着	個人に応じた課題を設定し、音楽に関する基礎的な知識と技能の定着を図る（音楽） ②	A	B	引き続き、個人の能力、関心に応じた課題設定を工夫し、表現に対する意欲を向上させる授業を目指す。
			色彩練習による美的感覚と鑑賞能力の育成を図る（美術） ②	A		
		興味・関心の向上	多様な作品の学習によって音楽への興味関心と自己表現力の向上を図る（音楽） ②	B		
			作品の鑑賞及び制作を通して自己表現力の向上を図る（美術） ②	B		
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨	A		
	外国語	基礎学力・基本事項の定着	生徒への声かけと丁寧な反復指導により基礎・基本の定着を図る ②③	A	A	生徒の学習への動機付けを促すために、ICT機器などの効果的な使い方を模索すること。個に応じた学びや探究的な学習
		興味・関心の向上	ICTなど教育機器を適切に活用し、生徒の英語への苦手意識の解消を図る ②③	B		
		個に応じた学習	生徒の実態や進路希望に応じた支援体制を構築する ②	A		

* 評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

各 教 科		指導の充実				活動などを工夫する。
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う	②⑨	A	
	家庭	基礎力の定着	生徒の実態に応じた授業内容の工夫ときめ細かい指導の実践を図る	②	A	B
		実験・実習等の教育環境の充実	実験・実習等を中心とした授業の展開と、ICTを効果的に活用し教育内容の充実を図る	②	B	
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う	②⑨	B	
	情報	パソコンの基本的な操作の習得	コンピューターに関わる基本的な用語及び知識の理解と定着を図る	①	A	B
			基本的なプログラミングについての知識習得を図る	①	B	
		授業改善の推進	教科の枠を越えた相互授業参観や、他校の実践例の視察・視聴等を積極的に行い、STEAMやPBL等、授業展開の仕方を見直し、年度末の授業満足度において、KPIの平均値が3.4以上となるよう、「学びの楽しさ」を実感できる授業を展開する	②⑨	B	
		ネットワーク利用のモラルの定着	生徒の興味・関心のある教材を活用した指導の工夫を図る	①	B	
	機械・ 情報 技術 科	実践的な能力と態度の育成	座学と実験・実習を横断的に取り入れることで、基礎学力の定着と集中して話を聴く姿勢の育成を図る	①②④	A	A
		安全の確保や事故の防止	安全教育の充実及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める	④	A	
		各種資格の取得	授業や補習をととして、資格取得の支援に努める	②③	A	
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように、ICT機器等を使用し授業改善を行う	②⑨	A	
	商業	コミュニケーション能力の育成	地域連携や協働を促進することで、販売実習等の体験的な学習の充実を図る	②③⑥	A	A
			生徒の能力を把握し、一人ひとりに寄り添った支援に努める	①	A	
		商業教育のスキルアップ	ICTを効果的に活用し情報活用能力の育成を図る	①②	A	
			授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う	②⑨	A	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評 価		次年度への主な課題
	校務全般の円滑運営 を図る	中学校訪問等を通して、本校の取り組みや長所を積極的に広報し、入学希望生徒の拡充を図る	②	A	B 学校説明会時に開催した 授業体験に対して、特に好評 を得ることができたが、会全 体の改善を図り、参加者の人 数を増やす方策が求められ
		各校務分掌や学年との情報交換を密に行い、適切な連携・調整に努める	⑧	B	
		各分掌の企画や業務内容を把握し、的確な調整を行い、円滑な学校運営に努める	②	B	
	行事等の円滑な企 画・運営	教務部内の業務を複数人で担当することで、業務量の平均化を図る	②	A	
		年間・月間計画の企画・立案と適切な変更・調整に努める	②⑧	B	

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

教 務	成績不振者等への適切な対応	定期考査の事前指導を適切に行い、生徒への周知徹底を図る	②	A		る。 オンライン授業の在り方やその評価法などについて、内規を含めて検討・整備していく必要がある。 ICT の活用率とその内容は確実に向上しているが、より先進的な活用を行っている教員の実践例を全体で共有できるよう研修の機会を多く設ける必要などがある。 資料などのデジタル化を進め、情報を共有・継承できる体制を整えることで、業務の効率化を図る必要がある。
		成績不振・遅進者に対する課外指導・個別指導等を、教科・学年と連携し、年間を通して計画的に行う	②	B		
		欠課時数の多い生徒に対して、適切な指導に努める	②	A		
		成績や欠時に関して、学年と連携し、生徒及び保護者等への早期対応に努める	②	A		
	適切な情報管理	成績処理と事務処理の効率化を図る	①②	B		
		ICT を活用した授業の充実を図れるよう、電子黒板やタブレット端末等の機器管理や研修の充実に努める	①②	A		
		ホームページなどを有効活用し、校外への情報発信の充実を図る	①～⑥	A		
		校内ネットワークの保守管理及び個人情報の管理の徹底を図る	①～⑥	A		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	B		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行を主眼とした、計画的な登下校指導等を行う	④	A	B	問題行動（いじめを含む）及び交通事故の総数はR4年度30件、R5年14件であったが、R6年度は42件（1月9日現在）となった。要因としては、教員が生徒の実態（特性）に応じてきめ細やかに対応し、信頼を得られた結果、相談しやすい環境となり、小さなトラブルを認知し、早期に対応出来ている証であると捉えている。 次年度も継続的に問題行動及び交通事故の未然防止教育の充実を図るとともに、規範意識の向上を図り、校則に則った制服の着こなし方、SNS等の正しい利用方法の定着を目指す。
		遅刻を防止する「遅刻カード」の利用及び指導の徹底を図る	④	B		
		服装・頭髮に関する教職員の共通理解と、家庭との連携の徹底を図る	④	B		
	規範意識の向上	規範意識の確立やマナーの向上を目指し、全校集会・学年集会・HR・ICT等を活用した指導を促進する	④	A		
		規範意識の向上を目指し、ボランティア活動及び特別指導の内容の充実を図る	④	A		
	安全で充実した学校生活の実現	問題行動や交通事故の未然防止を目指し、学校内外における計画的な巡視指導を行う	④	A		
		自転車・バイクの点検と実技指導を計画的に実施する	④	A		
	社会の変化に対応する能力の育成	携帯電話・スマートフォン、SNS等の正しい利用方法の指導の徹底を図る	④	B		
	働き方改革の推進					
		業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	A		
進路指導	進路意識の高揚	生徒・保護者への適切な進路情報の提供に努める	③⑥	A	B	3年間を見通した計画的なキャリア意識養成を実施するために、学年との連携を継続的に図る。 学年での計画的なキャ
		生徒面談の励行に努める	②③④	A		
		年度初めに進路適性検査・職業適性検査を実施し、結果を効果的に活用する	③	A		
		キャリア教育を学年と共に計画的に実施する	③	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		ジョブナビセミナーにおける社会人講師の積極的な活用を推進する	③⑥	A	B	リアセミナーの実施を進める。学年の枠を外した講演会等の計画を検討する。 ペーパーレス及び生徒一人ひとりが有益な情報を得るため、求人票のWEB化についてさらに効率を図る。 大学進学指導について、補習計画を教科と連携して実施していく。 ICT化による願書や調査書作成を効率的に行えるよう、教務・学年を交えて検討する。 引き続きハローワークとの連携を継続し、就職活動に生徒への就業感を持たせる。 「宮トレ」は指導方法等を再検討していく必要がある。
		進路資料を効率的に閲覧できるよう改善を図る	③	B		
		キャリアアップ・ガイドブックの内容を精選し、活用方法の工夫を図る	③	B		
		進路決定報告会を計画的に実施する	③	B		
		事前・事後指導を工夫して、効果的なインターンシップを実施する	③	A		
	進学率の向上	オープンキャンパスへ自発的に参加できるように情報発信の方法等を工夫・改善する	③	B		
		総合型選抜・AO入試・推薦入試に向けた面接指導を学年と連携して行う	③	B		
		模試・課外への参加を呼びかけ、自己実現を図れるよう適切な支援を行う	②③	C		
	就職内定率の向上	職業安定所と密に連携（所長、学卒担当講話・ハローワーク訪問等）を図る	③⑥	A		
		WEB求人を活用した求人情報の提供に努める	③	A		
		卒業生の就職先への企業訪問及び求人要請訪問を計画的に行い、求人者数の確保を図る	③⑥	B		
		生徒の応募前職場見学について複数社見学を行い、早期離職の防止を図る	③④	A		
		模擬面接指導を系統だてて実施できるよう学年と連携を図る	③④	A		
	学力の向上	就職合同面接会への積極的な参加と事前・事後指導の徹底を図る	③	B		
		基礎学力診断テストの実施と分析結果を、学年やHRでの指導に活かせるよう情報提供に努める	②③	B		
	働き方改革の推進	宮トレによって「できる」感覚を育成し、学習に向かう気持ちの醸成を図る	②③	C		
		業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減に努める	⑧	B		
保健図書	一人ひとりの個性を生かし学ぶ意欲や創造性と生きるための丈夫な身体を育む	生徒の実態に応じた、専門家による学年別性教育講話を実施する	⑥	A	B	多様化した生徒に対して柔軟に対応していくための支援体制を構築していく。 各種講話や訓練をとおして心身の健康・安全に関する意識の向上を図り、また、校内の環境整備に努める。 図書館の環境整備とニーズに合った選書に努め、読書活動と図書館利用を促進する。
		専門の外部講師による薬物乱用防止教室を実施する	⑥	A		
		心身の健康状態の把握に努めながら、適切な指導・援助に努める	⑥	A		
		修学旅行前に保健調査・健康相談等を効果的にを行い、事故防止の徹底を図る	⑥	A		
		保健便り等を活用し、生徒及び保護者の健康意識の高揚を図る	⑥	A		
		多様化した生徒に対応する支援体制の構築を図る	⑥	B		
	健康・安全に関する環境の整備と校内の美化を地域と連携し努める	緊急時に備えた避難訓練を、地域と連携して実施する	⑥	A		
		施設設備等の安全点検と管理徹底を図る	⑥	B		
		冬季の健康管理及び感染症対策、エアコン・加湿器の取扱及び換気について指導・管理の徹底を図る	⑥	B		
		清掃用具等の整備と校内外の美化活動の推進を図る	⑥	B		
		飲料水・プールの水質検査を計画的に行い、事故の未然防止を図る		A		
	図書館利用の推進	②				
		委員会活動の活発化に努める	⑤	C		
		図書館環境の整備に努める	②	C		
		各教科・学年との連携を密にし、利用推進を図る	②	C		
		興味関心を惹きつける選書をし、読書意欲の向上を図る	③	B		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

	読書活動の推進	図書や資料に関する適切な情報の提供に努める	③	B		
		「朝の読書週間」を実施することにより、読書に対する興味関心の向上を図る	⑤	B		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	A		
特別活動	ホームルーム活動の充実	クリーンアップ作戦の企画・立案から完成までを計画的に進めていく ⑤		B	A	生徒主体の学校運営のプロセスの在り方について検討し、実行していく。特に、学校行事の運営については、計画の段階から生徒も参加できるような仕組みを少しずつ増やしていきたい。 各学校行事やイベントなどへの取り組みが増える場合には、その他の行事の精選や負担の平準化、内容の工夫などを検討し、働き方改革の推進を図る。
	生徒会活動の充実	生徒会活動を通して生徒の主体性の醸成を図る	⑤	A		
		生徒の実態に応じた諸行事の企画・立案・実施に努める	⑤	A		
		各種委員会活動の充実を目指し、活動内容や組織の在り方について工夫する	⑤	B		
	学校行事の充実	各学年や校務分掌との適切な連絡・調整を図る	⑤	A		
		スポーツフェスティバルを通して、生徒の自己肯定感や協調性の向上を図る	⑤	A		
		資料やアンケートなどのペーパーレス化を推進し、DX化に貢献する	⑤	A		
	キャリア・パスポートの充実	キャリアパスポートを作成し、メタ認知を高める等の有意義な活用法を図る	⑥	B		
	部活動の充実	部活動の参加率の向上を目指すとともに、各部と連携しながら活動の在り方について工夫をする	⑤	B		
		部活動を通して、自己理解を深め、他者と協調する機会をつくり、自己実現を促す	⑤	A		
ホームページ等による活動状況PRの充実を図る		⑤⑦	B			
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、教員のウェルビーイングな在り方に貢献する	⑧	A		
渉外	PTA活動の推進	保護者と連携し情報交換に努めることで、PTA総会や定例の評議員会を企画し、組織の円滑な運営を図る	⑦	B	B	PTA活動への広報を充実することで、各活動への参加を促す。 一斉連絡体制の整備を図り、連絡体制の充実を図る。
		PTA活動の運営を通して、保護者の本校PTAに対する理解を深め、教員との協力関係を築く	⑦	B		
		PTAだよりの発行や、ホームページへの記事掲載を通じて、広報活動の充実を図る	⑦	B		
		ICTを推進し、学校と保護者間の連絡手段のデジタル化を図る	②⑧	B		
	同窓会活動の企画・運営	同窓会入会式の運営に加え、同窓会員との情報交換、連絡、調整に努める	⑦	A		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度への主な課題	
第1学年	集団における生活習慣の確立	あいさつの励行や、集団生活におけるルールの順守や、公共のマナーやモラルに対する意識の向上を図る	④⑥	A	A	基礎学力の定着とICT機器の活用の仕方が今後の課題として挙げられる。 次年度は、これらの課題を踏まえ、より一層の教育効果の向上を目指していく。具体的には、ICT機器を活用した個別学習の推進や、基礎学力定着
		生徒の実態を正しく把握し、職員・保護者と連携して問題行動の未然防止・早期発見する指導に努める	④	A		
		整理整頓、清掃を徹底し、教室環境の整備・美化に努める	④	A		
	基礎学力の定着および学びに向かう態度の醸成	基礎学力の重要性を理解させ、日々の授業や宮トレを大切に、学びに向かう態度や基礎学力の向上を図る	①②	B		
		教科担当者との連携を密に行い、成績不振の生徒に対して個別に応じた指導・支援を行う	②	A		
		資格試験や検定試験へ積極的に挑戦できるよう支援し、合格・取得に向けたサポートを行う	②③	A		
	進路指導の充実	進路行事等の意義の浸透を図り、当事者意識をもって積極的に取り組む態度を育む	③	A		
		進路行事を中心に、様々な進路・仕事についての理解を深めると共に、適切な進路選択のためのサポートを行う	③	A		
		学校行事を事前に伝えることで、スケジュールや情報の整理・管理をする習慣の定着を図る	③	A		
	社会人に向けて	適切な行動をとれるよう、様々な場面で指導を行い「公共心」を育む	③④⑤	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

	の意識改革	探究活動をとおり、社会に関心を持ち、広い視野で物事を捉え、自身の考えを表現する力を養う ①②③	A		の ための効果的な指導法の開発に取り組む。 生徒たちの健全な心身の成長を支援するため、教職員は今後も研鑽を積み、教育活動の更なる充実を図る。
		相手の話を「聞く力」、他者の意見を尊重し互いに高めあう「相互啓発力」を育む ③④	A		
	情報リテラシーの育成およびICT活用能力	情報収集や発信の場面において、情報を適切に判断したり、発信したりするための能力を育てる ②④	B		
		タブレット端末を活用することで、「情報収集」・「整理」・「分析」をする能力を育てる ②	B		
		電子黒板の各種機能を活用することで、授業に積極的に参加する主体性を育てる ②	A		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑧	A		
第2学年	社会人基礎力の育成	「道徳プラス」や探究活動、ホームルーム活動の中で、他者の多様な考え方を認め、自身の考え方を表現する経験を通し、幅広い視野を育むとともに、協働する力の醸成を図る。 ①③④⑤	B	B	年間を通じて各種の進路行事を実施したことで、進路意識の向上を図ることができた。インターンシップやオープンキャンパスを経験したことで、進路決定に向けて考えを深める姿勢や態度を養うことができた。 学年行事などでICT機器を活用する機会を増やしたことで、情報を収集し適切に判断するスキルの向上を図ることができた。今後は、それを各自の進路活動に活かせるよう、継続的に努力していく。欠席が多くならないよう、家庭との連絡を密に取り、学年のみならず関係分掌と連携し、チーム常陸大宮で登校支援の充実を図る。
		インターンシップや修学旅行、事前の探究活動を通して、コミュニケーション力を高め、様々な人との接し方や公共のマナー・ルール等、社会の一員として生きていくための力を育む。 ③④⑥	A		
		生活面、学習面等様々な場面において、個に応じた課題を段階的に取り組み、解決する過程を通して、自己効力感を高め、自ら挑戦する意識を育む。 ③④	B		
	基礎学力およびICT活用能力の定着・向上	宮トレを通して義務教育内容の振り返りを定期的に行い、基礎学力の向上を図るとともに、日々の授業に主体的に取り組む態度を養うことで、更なる学力の向上を図る。 ①②	B		
		教科担当者との密な連携を通して、成績不振の生徒に対して個に応じた指導を行う。 ②	B		
		資格試験や検定試験へ積極的に挑戦するよう勧めるとともに、合格・取得に向けたサポートを行う。 ②③	B		
		情報収集や発信の場面において、情報を適切に判断したり、発信したりするための能力を育てる。 ②④	A		
		「情報収集」だけにとどまらず、表計算やプレゼンテーションをはじめとした様々なアプリケーションを活用し、「表現力」「分析力」「思考力」を育むとともに、社会とスムーズに調和できるようにICTスキルの向上を図る。 ②③	B		
	進路意識の高揚	進路関連行事等においてその意義の浸透を図り、当事者意識をもって積極的に取り組む態度を育む。 ③	A		
		進路関連行事を通して、様々な進路・仕事についての理解を深めさせ、適切な進路選択のためのサポートを行う。 ③	A		
		インターンシップを通して、勤労観や職業観を育成し、進路意識の高揚を図る。 ③⑥	A		
		「シン発見」の授業やキャリアセミナーにおいて、場に適した身だしなみや言葉遣い等を徹底し、生徒が「切り替え」を意識することで、進路に対する意識・行動の変容を図る。 ③④	B		
	情報共有の徹底	情報共有を密に行い、生徒一人ひとりの実態を正しく把握し、問題行動の未然防止・早期発見・早期支援に努める ④	A		
		進路行事や生徒支援など、生徒の学校生活について、ねらいや基準の統一など教員間で共有し、支援にあたる ③④	A		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑧	B		
第3学年	社会人基礎力の定着	先を見据えて計画的に行動することに加え、周囲を巻き込んで全体のキャリア意識の向上を図れるような態度の醸成のため、定期的にキャリアプランの進捗、学習環境・状況の把握に努める。 ③	B	B	・外部講師を招いて行うキャリアセミナーが2学期後半から3学期に多く、生徒、教員とも負担が大きく感じた。学習効果
		進路実現に向けて自身の課題となる点を発見し、解決に向けて主体的に取り組む態度の醸成を図る。 ③⑥	B		
		他者の意見を傾聴し、様々な立場や多様な考え方を理解し、幅広い視野の獲得を図る。また、他者の求める事柄について理解し、自身の考えを適切に分かりやすく表現する力を育成する。 ③④⑤	B		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和6年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		様々な立場の人と接する中で直面する課題について、周囲の力を借りながら緩和したり解決したりする経験を通し、自立した社会人として生活できるようストレスをコントロールする力を育む。 ③④⑤	B	を高めるためには、時期を分散する、または実施内容を精選する必要がある。 ・進路活動について、スケジュールに余裕をもって行動できないことが多かった。適切な支援を行えるよう、スケジュール管理について検討する必要がある。
		マナーやモラル、ルールを順守する態度を育み、社会を形成する一人の大人として責任感を持ち、倫理観のある言動・行動の習慣化を図る。 ①③④⑤	A	
	基礎学力およびICT活用能力の定着・向上	進路実現に向け、一般教養・一般常識の大切さを理解し、日々の授業や進路行事に積極的に取り組む意識を育む。 ②③	B	
		各教科担当者と連携し、授業や課外等でそれぞれの進路に応じた教養を身に付けられるよう支援を行う。 ②	B	
		ICT 機器を効果的に活用し、自身の進路に関する情報を適切に収集できるよう支援を行う。 ②③	A	
		資格試験や検定試験へ積極的に挑戦するよう勧めるとともに、合格・取得に向けた支援を行う。 ②	B	
	キャリアサポートの充実	生徒や保護者等との面談を密に行い、将来像を明確にしたうえで進路活動を行い、自身の意思で進路決定および実現できよう促す。 ③⑥	A	
		「宮トレ」や「シン発見」において、それぞれの進路希望ごとに模擬面接や作文・小論文、一般教養や時事問題など進路実現および将来必要となる知識やスキルの習得など、進路実現の支援を行う。 ①③⑥	B	
		キャリアセミナーを通して、一人ひとりの望ましいキャリアを実現するための資質・能力を育成する。 ③⑥	A	
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組むことに加え、それぞれの資質を活かした業務の割り振りを行い、時間外勤務の削減を図る。 ⑧	A	

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない